

### 「金銭の絶対法則」

人間社会のあらゆる価値観が「金銭の絶対法則」を共有している限り、計画や設計を進める上で、「金銭」と「時間」の問題は絶対に他人にまかせてはならない。

自分が「金銭」と「時間」について主体的に、さらに主導的に取り組まなければ「構造デザイン」は成立しない。

「最も安価な構造物を設計する手法」は存在しない。

「設定された予算に対していかに価値ある構造物を設計するか」に立脚点を設定する。

「設計はその建築が竣工したときに終わる」、「竣工するまで設計行為は継続する」という考え方は、以下の二つの条件を満足したときのみ成立する。

- ① 徹底したコストコントロール。
- ② クリティカルパスの予見。

日曜学校で使用されたスライドの抜粋。下文中の「クリティカルパス」とは建設工事での主要な工種とその

## 「構造デザインを求めて」 ⑩

文・福村 俊治 (チームドリーム代表)

建築に限らず、現代の人間社会においては「お金」と「時間」の問題から逃れることはできない。

私たち建築設計に携わる者にとって「お金と時間」とは「積算と工程」だ。この「積算と工程」の考え方や方針をしっかりと持ち、それを人任せにはしないという強い意志を持って設計に携わることが重要である。なぜなら世の中の「安く、早く」の大波に流されてしまえば、建物の科学的安全性や合理性、それに芸術性や創造性など全てを放棄したことにしかならない。大

### 積算と工程

を目指すことに立脚点を置かなければ、建物をつくる意味がないのである。

これまでの渡辺先生の構造の講義では、建築主の意向を反映できるように意匠・構造・設備設計が一体となつて構造デザインを目指す構造手法を学んできた。今回の講義は、その建物を確実に実現するための裏付けとしての「積算と工程」を設計者がしっかりと把握することの重要性を述べたのである。1000円の予算で200〜3000円に相当する空間をいかに実現するかが課題であつて、1000円かかる

建設物価はその時代の状況によつて変動する。建築主の利益を疎外してもいけないし、建設業界の発展にも責任を持たなければならぬ。だから、設計する前に、設計の途中に、そして、設計後の業者に発注する際に設計者は常に建設コストを考えながら、建築主と建設業者の間に立つてバランスをとることが大切なのである。また、コスト管理は建設業者がするもので難しいと思われがちだが、積算は極めて単純で、建設コストは物量×単価で算出される。設計した建物の設計資

# 建物のコスト管理

切なことは、いかに安い建物を設計するかではない。設定された予算内で、より価値の高い、つまり安全で耐久性があり、芸術性に富み創造的な「構造デザイン」

ものを80円にコストダウンしたり急いでつくつて、100円どころか80円にも満たない価値の建物になることも多々あることを肝に銘じるべき話なのである。

コストを考えながら設計を行い、設計した建物が設定された予算以上の価値ある建物ができるかどうかは私たち設計者に問われている。 毎月第3週に掲載